

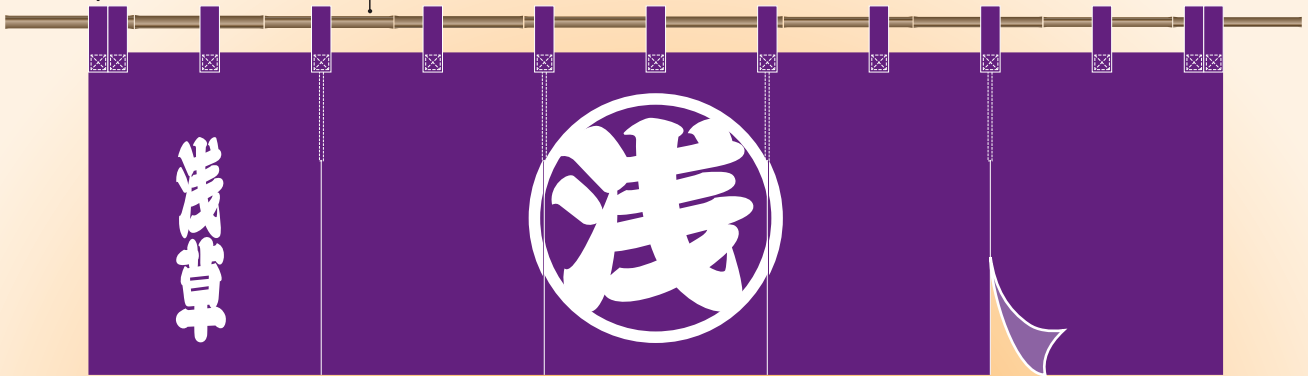
古来からの店舗の顔が販促物として受け継がれています

のれん (暖簾)

お店の顔として、看板と共にお客様を迎え入れます。

使う場所によって屋号や、強調製品をアピールするなど、使い分けます。
集合店等でお使いの場合は防災加工もお忘れなく。

ち(ちぎれ) 本体と同じ生地を使うのが正式です(共ちぎれ)。両端は補強のため2個付けます。
のれん竿 竹材がのれんと良くマッチします。黒竹がよく使われます。



この1片を「1布」といいます。この図の場合「5ぬの」になります
数え方は「張り」「垂れ」などを使い、「ふたはり」などといえます

水引のれん

割れの入らない1枚ものの、のれんです。
上辺をテープ巻きしたものが、一般的です。



くぐり易いのも
工夫のひとつです



販売の現場では個性的なデザインが目目を引くケースもありますから、形にとらわれず、自由な表現をするのも一つの方法です。

印刷方法と素材

- 店舗の顔として正式に使う場合
印刷:友禅染め・ゴ染め・反応染め・シルク印刷 / 素材:天竺(綿)・八鶴・麻・シャークスキン・他
- 販促用として短期で使う場合
印刷:シルク印刷・昇華転写
素材:天竺(綿)・トロピカル・ポンジ(ポリエステル) 他

店舗の入口が1間(約1.8m)の場合、のれんの全幅は約1.700~1.750mmです。古くからの半巾(小巾)の生地による仕立てから続いているようです(約350mm×5布)。仕立て方には正式、略式の他、日本の東西での違いも見られます。
1. 本仕立(関東) 2. 本仕立(関西) 3. 略式(つまみ) 4. 略式(切込みのみ)

